

# 令和4年度(2022年度)セタシジミ放流用稚貝の育成と北湖漁場への放流

佐野聡哉・井戸本純一・鈴木隆夫

## 1. 目的

北湖漁場のセタシジミは近年生息密度が低下し、漁獲の低迷が続いている。セタシジミ資源の増殖を図るため、稚貝を育成して北湖の漁場に放流した。

## 2. 方法

琵琶湖北湖で採捕した親貝を西の湖で肥育し、水産試験場内の水槽で産卵させてD型仔貝を生産した。このD型仔貝をエアリフト式のアップウェリング(UW)法および地まきで飼育した。餌として、水産試験場で培養したクロレラをFRP水槽に毎日注入した。10日齢頃からは市販のクロレラを少量加えた。平均殻長が300 $\mu$ mを超えるまで育成し、琵琶湖北湖の漁場に放流した。

## 3. 結果

稚貝育成および放流の結果を表1に示す。

育成した稚貝は、6月9日～8月26日にかけて沖島南漁場に2回、松原漁場に6回放流した。

5月24日および6月7日にUWに收容したロットを除いて生残率は低かった。日間成長量は、收容密度が低いほど高くなる傾向がみ

られた(図)。

表2には、参考に過年度からの北湖漁場へのセタシジミ放流実績を示した。

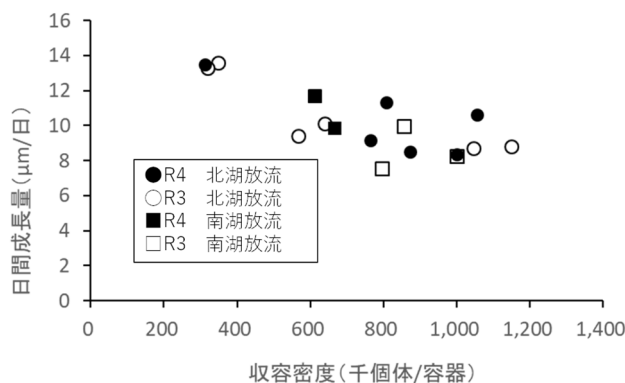


図 UW水槽へのD型仔貝の收容密度と仔稚貝の日間成長量の関係 (南湖への放流種苗およびR3年度放流種苗もグラフに表示した)

表2 北湖漁場へのセタシジミ種苗放流実績

年度	D型仔貝		稚貝	
	沖島南	松原	沖島南	松原
H30	6,260万	2,600万		
H31				
R2			1,262万	
R3			1,288万	168万
R4			1,455万	815万

表1 セタシジミ稚貝育成および放流の結果

收容時			放流時			飼育水温 最高/最低 (°C)	飼育日数	生残率 (%)	日間成長量 (μm/日)	放流漁場
月日	個体数 (千個体)	密度 (千個体/容器)	月日	個体数 (千個体)	平均殻長					
5月24日	12,000	1,000	6月9日	8,480	303	27/22	16	71	8.3	沖島南
5月24日	10,000	地まき	6月20日	30	301	27/20	27	0	4.9	松原
5月31日※	11,120	927	6月20日	2,520	329	27/21	20	23	8.0	松原
6月7日	8,450	1,056	6月20日	6,073	308	27/20	13	72	10.6	沖島南
6月14日	9,190	766	6月30日	1,575	316	28/20	16	17	9.1	松原
6月22日	10,480	873	7月11日	727	331	28/23	19	7	8.5	松原
7月22日	9,700	808	8月5日	3,062	328	30/25	14	32	11.3	松原
8月5日	2,500	313	8月26日	235	453	29/28	21	9	13.5	松原

※最初地まき、途中からUWに收容

日間成長量：飼育中の殻長の増加／飼育日数